

令和4年度 経営協議会学外委員からの意見を法人運営の改善に活用した主な取組

本学では、経営協議会において、経営者等外部委員の幅広い経験・視点からの助言をいただき、大学運営の改善等に役立てている。

令和4年度においても以下のとおり様々な助言等をいただき、改善に役立てている。

令和4年度3回経営協議会（令和4年11月17日（木）開催）

II 報告事項

1 新たな教育組織（学士課程）設置準備の進捗状況等について

※令和4年度第3回経営協議会議事要録参照

【大学運営の改善等に関する意見】

- ① データサイエンスに特化した組織を設置すれば、必ずしもデータサイエンス人材が育成されるとは限らないと思う。既存の研究の中で適切な教育を受けることでデータサイエンスの能力が身についた学生を輩出することができるのではないか。

【本学の対応】

データサイエンス教育における一般的な学習体系にはリテラシーレベルから応用レベルまで階層的であり、各レベルにおける知識・技能等の修得には効果的な学習順序があります。さらに数学やプログラミングの基礎知識は必須となるので、学習背景が異なる学生らを漏れなく一定のレベルに到達させるためには、カリキュラム上の工夫が必要です。たしかに既存の研究活動を通じてデータサイエンスも含めた教育を行うことは可能ですが、当該研究に関わる部分的な学習に限定される可能性があります。特に地域未来共創学環では、多様な地域課題の解決（地域創生）にデータサイエンス技法の活用を目指すため、学習内容の深さ・広がりおよび科目間の連携を十分に考慮した専用カリキュラムが必要です。そこで新規に「地域創生データサイエンスプログラム」を設けることとしました。